

① 古紙・布類の回収量が有料化実施前年よりも減った理由を書きましよう。

## 家庭ごみ有料化2年目 総排出量12.3%減

大分市は14日、家庭ごみ有料化2年目（2015年11月～今年10月）のごみの排出状況を公表した。可燃ごみ（燃やせるごみ）と不燃ごみ（燃やせないごみ）を合わせた総排出量は有料化実施前年（13年11月～14年10月）と比べて12.3%減少。1年目と比較してもわずかに下回った。市清掃管理課は「1年目に引き続き、ごみの減量効果が維持できている」としている。



② 記事を基に、有料化実施前年同期の可燃ごみの排出量を計算ましよう。

市によると、ごみ排出量は、可燃ごみが8万2488ト（実施前年同期比11.6%減）、不燃ごみは49233ト（同22.1%減）だった。リサイクル分野では、資源プラの回収量が実施前年同期比で27.3%増と大きく伸びたが、古紙・布類は同2.3%減った。市調査では可燃ごみの中に古紙が1割ほど交じっており「分別の徹底を呼び掛けた」（清掃管理課）としている。

可燃ごみの減量に伴う処理コストの節減効果は年間約3400万円と試算する。指定袋販売などの手数料収入は年間約4億5千万円で、本年度は袋の製造費などの必要経費を差し引

家庭ごみ有料化2年目の概要について説明する桑野徹清掃管理課長（左）、大分市役所

# 減量効果は維持

## 大分市 分別徹底を呼び掛け

市によると、ごみ排出量は、可燃ごみが8万2488ト（実施前年同期比11.6%減）、不燃ごみは49233ト（同22.1%減）だった。リサイクル分野では、資源プラの回収量が実施前年同期比で27.3%増と大きく伸びたが、古紙・布類は同2.3%減った。市調査では可燃ごみの中に古紙が1割ほど交じっており「分別の徹底を呼び掛けた」（清掃管理課）としている。

は減少しているものの不燃ごみは横ばい傾向。市は違反ごみが多いごみステーションでは指導や看板設置などを強化する。

市議会は有料化を認める条件として「3年ごとの制度の見直し」を求めている。市は来年度中にごみ減量の効果などを検証し、制度の継続の可否を判断する。継続する場合も袋の価格などを見直しを図るといふ。

③ ごみ減量のためにできることを、自由に考えてみましょう。